

The background features a stylized mountain range in shades of pink and purple. Numerous white and light pink diamond-shaped petals or leaves are scattered across the scene, appearing to fall from the mountains. A white rectangular box with a thin purple border is centered in the lower half of the image.

# 皇后陛下の御親蚕

# 貞明皇后

明治初期より現在まで、皇后さまの御養蚕が紅葉山御養蚕所において連綿として続けられています。

天皇陛下の御稲作とともに皇后さまのご養蚕はわが国の農耕文化の象徴として重要な皇室行事となっています。

皇室における御養蚕は主に日本古来の蚕品種「小石丸」が、農業生物資源研究所ジーンバンク（北斗地区）から献上され飼育されています。

大正天皇の皇后陛下、貞明皇后さま（昭和天皇の生母、名は節子姫）は養蚕にご関心があったようで、青山御所において明治45年までは皇太子妃殿下として、大正2年からは皇后として、御親蚕（皇后御自ら蚕を飼育なさること）されました。

大正6年の春から、掃立式（今の御養蚕初の儀）と奉告祭（今の御養蚕納の儀）が行われるようになりました。この2儀において、皇后さまは神前に進んで親しく御拝されます。

貞明皇后さまは蚕糸・絹業を奨励し、養蚕・蚕糸を題材とした和歌を能くされました。またハンセン病患者を救うライ病の救済事業などにも尽力されました。

昭和26年（1951）崩御（66才）

# 美智子皇后陛下の御親蚕

明治4年に昭憲皇太后吹上御苑で始められた皇后陛下による御養蚕は「皇后御親蚕」という形で歴代の皇后陛下に受け継がれてきました。

皇后陛下は平成2年に御養蚕を引き継がれてから、毎年5月の初旬から「春蚕」飼育をなされます。

養蚕の作業は「桑摘み」「給桑」「上簇」「収繭」と多くの行程がありますが、皇后陛下は、お忙しいご公務の合間を縫ってあらゆる作業をなさっています。

御養蚕では、日本古来の「小石丸」、日中交雑種の「日137×支146」と欧中交雑種の「欧16×支16」の3品種が飼育されております。農業生物資源研究所では、毎年、皇后さまが飼育される小石丸の卵の保存と催青並びに蚕蛾の母蛾検査と後者2交雑種の卵の提供を行なっています。小石丸は明治38年、ときの皇太子妃で後の貞明皇后が東京蚕業講習所に行啓の折、たいそうお気に召されたと伝えられ、その折、種が献上され、それ以来飼育されています。

平成四年（一九九二年）

# 歌会始の儀」御歌

美智子皇后さま

葉かげなる天蚕（てんさん）は

ふかく眠りゐて

櫟（くぬぎ）のこずるゑ

風渡りゆく

# 養蚕織婦之図

大正12年3月

絹地に養蚕から製糸まで絵図  
日本画家 関 長年 作

養 蠶 織 婦 之 圖

信濃國

高井郡中野

時在丁丑季夏

六十五翁

關長年





蚕出坐掃初采付之國は小傳濃玉言并那蚕出生節ハ主友  
十日前後ハ主出トナラズといふあり洗掃出テ一番ニ為ナリ  
別知来来然ハ何ノ事ナキ外ハ何トモ思フ事ナシト云フ事ナリ



蚕養始て休と志汁欠とのぞふ又獅子の  
所と云とく 俗に一ツを養ひてとらり



蚕養鷹乃休俗ニツ休ト云



壺養船之休園至三度乃供後茶我々多くに志く之次人亦大きなり  
後く多くに志く之次人亦大きなり

蟻庭起夜之圖  
蚕をくまふ大眠起して  
夜を束の末とて  
車あつくりた多  
く此の末糸を採  
初糸をくまふといふ  
うけいそくあり  
作あり

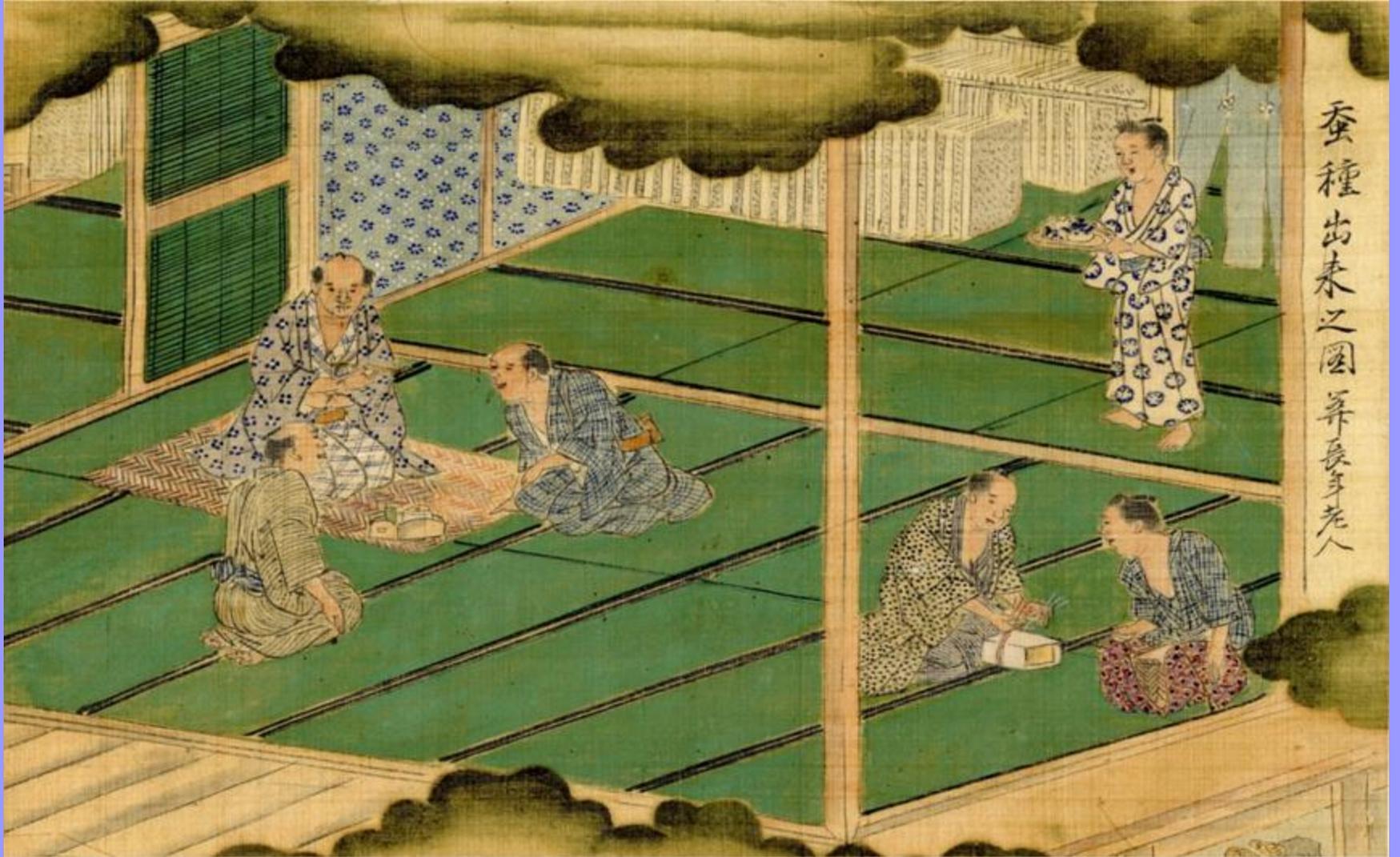


蚕繭成化る時をい子とつふ籠入菜種  
のく乃本残者入をきくころを以  
必種うると上二揃てはのり流せり  
四の傍まきつ所をきくもいんた



蒲達扱取圖





蚕種出来之図并長年老人

生繭糸糸採取卷



茶上獲機器之圖





糸吟味製衣之圖并長年

おわり